

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-48357

(43)公開日 平成11年(1999) 2月23日

(51)Int.Cl.<sup>8</sup>  
B 2 9 D 12/02

識別記号

F I  
B 2 9 D 12/02

審査請求 未請求 請求項の数1 書面 (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平9-241653

(22)出願日 平成9年(1997) 8月4日

(71)出願人 592069780

田中眼鏡株式会社

大阪府八尾市美園町1丁目29番

(72)発明者 田中 玄

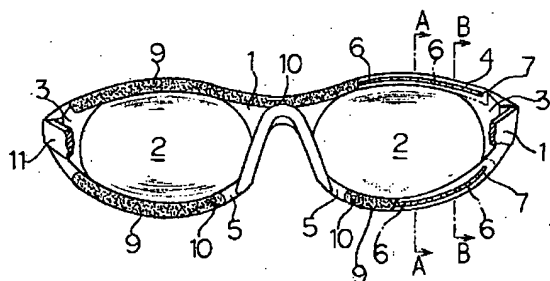
大阪府八尾市美園町1丁目29番

(54)【発明の名称】 緩衝体付サングラスの一体的製造方法

(57)【要約】

【目的】硬質合成樹脂により成型される眼鏡枠の内側上端部と内側下端部とに軟質合成樹脂の緩衝体を一体的に圧入溶着して、眼鏡使用者の目を風と塵埃より保護することを目的とする。

【構成】硬質合成樹脂を資材とした眼鏡枠1を成型するに際し、左右のレンズ2を嵌合するレンズ枠3の内側上端部4に連続し、且つ夫々のレンズ枠3の内側下端部5とに、一定の間隔をおき多数の連結体6により細幅の連結橋7を一体的に膨出成型した後、該レンズ枠3内側の上下端部4、5に膨出成型した連結橋7を囲繞し、且つレンズ2を嵌合するレンズ溝8にかけて軟質合成樹脂の緩衝体9を顔面の形状に沿う様に圧入溶着して一体的に形成する。



BEST AVAILABLE COPY

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 硬質合成樹脂を資材とした眼鏡枠1を成型するに際し、左右のレンズ2を嵌合するレンズ枠3の内側上端部4に連続し、且つ夫々のレンズ枠3の内側下端部5、5とに、一定の間隔をおき多数の連結体6、6、…により細幅の連結橋7、7を一体的に膨出成型した後、該レンズ枠3内側の上下端部4、5に膨出成型した連結橋7、7を囲繞し、且つレンズ2を嵌合するレンズ溝8にかけて軟質合成樹脂の緩衝体9、9を顔面の形状に沿う様に圧入溶着して一体的に形成することを特徴とする緩衝体付サングラスの一体的製造方法。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、硬質合成樹脂を資材として眼鏡枠を成型するに際して、レンズを嵌合する左右のレンズ枠の内側上端部と夫々のレンズ枠の内側下端部とに、一定の間隔を置いて連結橋を一体的に膨出形成した後、この連結橋を囲繞し且つ顔面の形状に沿う様に軟質合成樹脂による緩衝体を圧入溶着して、サングラスの外面を通過した風が眼鏡枠の内側上下に膨出する緩衝体によりサングラスの内面に巻き込まれないので、目に風が直接当たる事なく有効に保護すると共に、空気中に浮遊する粉塵をも目に入らない様に保護する様にした緩衝体付サングラスの一体的製造方法に係るものである。

## 【0002】

【従来の技術】近年、ファツシヨ的な要素を多分に持つサングラスにおいては種々の形状のものが市販されており、このサングラスを掛ける主目的は特に夏期における直射日光による紫外線より目を保護する意味で使用されていたが、これがファツシヨ的な感覚により本来的な使用意味を度外視して年中使用されており、又従来よりスキー、サイクリング、オートバイ等の屋外において相当のスピードで移動し、又は活発に躍動する屋外スポーツ等、更には特に発塵を伴う工場を含む室内においては、眼球を直接風に晒されるのを防止し且つ空気中に浮遊する粉塵が目に入るの防護する意味で、ゴーグル又はサングラスを使用しているものである。

【0003】而して、ファツシヨ的なサングラスにおいてはある意味で防風効果が得られるが、反面これを防塵効果の点よりみると、眼鏡枠の周囲と顔面との間隙より粉塵を含む空気が舞い込み往々にして空気中に浮遊する粉塵が目の中に入り込む憂いがあり、これを防止する意味で眼鏡枠の周囲と顔面との間隙をなくする為に、合成皮革のフード体を眼鏡枠の上縁とその両側縁の眼鏡莖に連着してこれを防止するか、又は同様に眼鏡枠の上縁及びその両側縁に接着剤を介して硬質合成樹脂製の防塵フードを接着して防塵効果を得ようとしているものである。

【0004】しかしながら、この場合前者の合成皮革の防塵フードにあっては、眼鏡枠の上縁とその両側縁の莖

とに取付け鉋により柔軟な合成皮革を取付けているので、眼鏡と顔面との間隙を適確のカバーできないので往々にして粉塵を含む空気が舞い込み易く、しかも時として該フードが柔軟な為に視界を阻害する原因にもなるものであり、又眼鏡枠に接着剤により防塵フードを接着した場合には、これらを美麗に接着するのに相当の手間が掛り、しかも接着剤の溶剤により眼鏡枠のみならずひいては合成樹脂製のレンズの場合にはこれまでも変色させる憂いを有すると共に、長期間の使用により剥離が生じ易く、更には運動途中等において他と衝突した場合には、硬質合成樹脂の防塵フードの周縁が目回りの眼窩の周囲に直接衝突して皮膚を損傷せしめる虞を有しているものである。

【0005】又、防風、防塵に効果的とされているゴーグルにおいては眼鏡枠とその周囲を囲繞するフードを一体的に大きく頑丈に形成し、且つ顔面の当たる周縁部分は分厚いスポンジ状の緩衝物を貼着して目を保護しているので、防風、防塵との観点よりみれば充分にその機能を果しているが、反面ゴーグル自体が大きすぎて移動、保管に不便な為、ごく特定のスキーヤーのみが使用して他のシーズンオフ、若しくは防風、防塵効果が効果的とされている職場での使用が敬遠されているのが現状である。

## 【0006】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、硬質合成樹脂により形成される眼鏡枠に、顔面との間隙をなくす様な軟質合成樹脂の緩衝体をレンズ枠の内側上端部と内側下端部とに顔面の形状に沿う様に圧入溶着して、目が直接風に晒されたり浮遊粉塵が目に入らないようにし、更には眼鏡使用者が他と衝突しても軟質合成樹脂の緩衝体により眼窩の周囲を損傷せしめる事なく、本来の防護眼鏡としての機能を発揮する様なサングラスの一体的な製造方法を提供せんとするものである。

## 【0007】

【課題を解決するための手段】本発明はかかる課題を達成するため手段として、異質の資材を組み合わせるべく、硬質合成樹脂を資材とした眼鏡枠を成型するに際し、左右のレンズを嵌合するレンズ枠の内側上端部に連続し、且つ夫々のレンズ枠の内側下端部とに、一定の間隔をおき複数の連結体により細幅の連結橋を一体的に膨出形成した後、この連結橋を囲繞し且つ顔面の形状に沿う様にした緩衝体を異質の軟質合成樹脂により圧入溶着して、異質の材質により一体的なサングラスを形成しかかる目的を達成せんとしているものである。

## 【0008】

【作 用】本発明によれば、性状の相違する異質の資材を組み合わせるに際して、接着剤等の溶剤を全く使用していないので、長時間このサングラスを掛けていても揮発性の有毒ガス等の溶剤の発散もなく、しかも軟質合成樹脂による緩衝体の剥離が起きない様に、比重が小さく

耐衝撃、耐候性と耐薬品性に富み、変形性の良好な硬質合成樹脂により眼鏡枠を成型するに際して、先ず第一段階として、レンズを嵌合するレンズ枠の内側上端部と下端部とに一定の間隔をおき多数の連結体により細幅の連結橋を一体的に膨出形成してレンズ枠を成型した後、第二段階として該レンズ枠の連結橋を囲繞し、且つレンズを嵌合するレンズ溝にかけて優れた弾性を有し、耐熱と耐候性に富む軟質合成樹脂の緩衝体を顔面の形状に沿う様に圧入溶着するものであって、これらの各段階においては金型等による成型手段により形成しているものであるから、緩衝体は眼鏡枠と顔面との間隙を効率的にカバーして浮遊粉塵が入り込むのを防止すると共に、眼鏡枠と緩衝体とは前記する如くのレンズ枠の内側面に一体的に膨出形成する連結橋を囲繞する様に圧入溶着しているので、長期間の使用により剥離する憂いもなく、しかも軟質合成樹脂による緩衝体により顔面を損傷する憂いがないので、その材質と相俟って従来のサングラスにない極めてファッション性に富んだ感覚で使用出来るものである。

#### 【0009】

【実施例】本発明の一実施例を説明すれば、硬質合成樹脂を資材とした眼鏡枠1を成型するに際し、左右のレンズ2を嵌合するレンズ枠3の内側上端部4に連続し、且つ夫々のレンズ枠3の内側下端部5、5とに、一定の間隔をおき多数の連結体6、6、…により細幅の連結橋7、7を一体的に膨出成型した後、該レンズ枠3内側の上下端部4、5に膨出成型した連結橋7、7を囲繞し、且つレンズ2を嵌合するレンズ溝8にかけて軟質合成樹脂の緩衝体9、9を顔面の形状に沿う様に圧入溶着してなるものであって、図中10、10は軟質合成樹脂の圧入孔、11は蔓部である。

【0010】本発明は叙上の如き構成によりなるものであって、眼鏡枠1を形成する硬質合成樹脂は比重が小さく耐衝撃、耐候性と耐薬品性に富み、変形性の良好なものを金型等による成型手段により成型するものであるが、この時レンズ枠3の内側の上下端部4、5に膨出成型する連絡橋7、7は、次工程において圧入溶着する緩衝体9、9がこれを囲繞し且つ顔面の形状に沿う様にした軟質合成樹脂が強固に溶着する様に多数の連結体6、6…と共に一体的に膨出成型しているもので、この緩衝体9、9には優れた弾性を有し、耐熱と耐候性に富む軟質合成樹脂を圧入孔10、10より強制圧入するが、図

示する様に1つの緩衝体9、9に対して1ヵ所より圧入しているが、これに限定されることなく複数箇所より同時に圧入溶着するかは任意であって、これら異質の材質を一体不可分に溶着して長期間の使用に際しても剥離する憂いや、万が一他と衝突しても眼窩の周囲の皮膚を損傷することがないものである。

#### 【0011】

【発明の効果】本発明のかかる構成により、例えば硬質合成樹脂による眼鏡枠1を透明体としこれに圧入溶着する軟質合成樹脂による緩衝体9、9を変化に富んだ色彩を施せば、眼鏡枠1の正面より見てその上下に圧入溶着した緩衝体9、9の色彩が近代的な模様として浮き出るものであり、従来のサングラスにおいては得られなかった防風、防塵効果を兼ね備えたファッション感覚溢れたものとして利用出来るもので、これはサングラスに限定されるものではなく一般の眼鏡においても転用可能なもので、これによりスキー、サイクリング、オートバイ等の屋外スポーツ又は花粉防止更には発塵工場においては防塵眼鏡にも使用できると共に、従来にない防護眼鏡として種々の用途或いはファッション性を加味したものとして個性を発揮出来る等種々の用途が創造される極めて有用なるものである。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例を示す正面よりの斜視図である。

【図2】同上における一部切除した背面図である。

【図3】図2のA-A線における縦断端面図である。

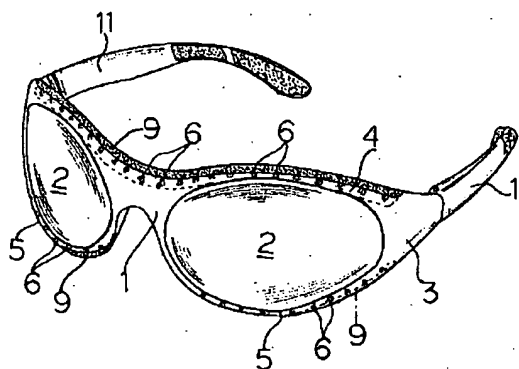
【図4】図2のB-B線における縦断端面図である。

【図5】図3のC-C線における横断端面図である。

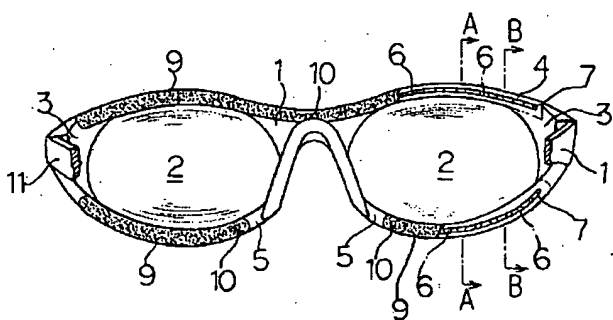
#### 【符号の説明】

1	眼鏡枠
2	レンズ
3	レンズ枠
4	内側上端部
5	内側下端部
6	連結体
7	連結橋
8	レンズ溝
9	緩衝体
10	圧入孔
11	蔓部

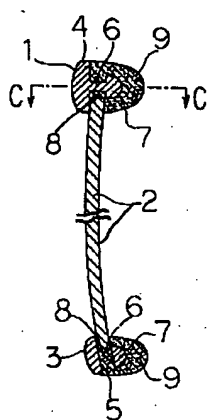
【図1】



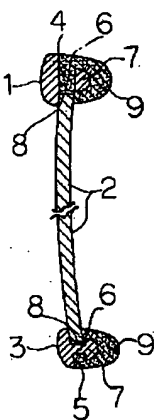
【図2】



【図3】



【図4】



【図5】

